

OMRON

2027年3月期 第1四半期決算

**2026年8月5日
オムロン株式会社**

発表のポイント

● 2026年度 第1四半期(4～6月)実績

- 全社実績は、制御機器事業がグループ全体を牽引し、大幅な増収増益
- 制御機器事業は、AI関連需要の獲得に加え、顧客基盤の拡大が寄与し、大幅な増収増益
- ヘルスケア事業、データソリューション事業は、営業やマーケティングの強化が寄与し増収増益。
社会システム事業は、事業ごとに濃淡はあるものの、売上・営業利益ともに前年並み

● 2026年度 通期見通し

- 期初計画から売上・営業利益・当期純利益を上方修正
- 特に、制御機器事業では、期初想定を上回る好調な事業環境を背景に、大幅な増収増益を見込む

- 1. 2026年度 第1四半期(4～6月)実績 …… P.4 ～ P.7**
- 2. 2026年度 通期見通し …… P.8 ～ P.16**
- 3. CFOメッセージ …… P.17 ～ P.19**

1. 2026年度 第1四半期(4～6月)実績

*当社は、2026年度より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用しています。
これに伴い、本資料における2025年度・2026年度の数値はIFRSに基づき作成しています。

1Q期間(4～6月)実績：全社連結

前年同期比で大幅な増収増益

(億円)

	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比
売上高	1,665	2,099	+26.1%
売上総利益 (売上総利益率)	757 (45.5%)	975 (46.5%)	+28.8% (+1.0pt)
営業利益 (営業利益率)	58 (3.5%)	189 (9.0%)	+226.0% (+5.5pt)
継続事業純利益	51	144	+182.7%
非継続事業純利益	△1	△ 34	-
当社株主に帰属する 当期純利益	46	106	+131.1%
米ドル 平均レート (円)	145.7	159.6	+13.9
ユーロ 平均レート (円)	162.9	185.3	+22.4
人民元 平均レート (円)	20.1	23.3	+3.2

* 電子部品事業除く全社連結実績（非継続事業組替え後）

1Q期間(4～6月)実績：事業セグメント別

制御機器事業、ヘルスケア事業、データソリューション事業は増収増益。
社会システム事業は減収減益

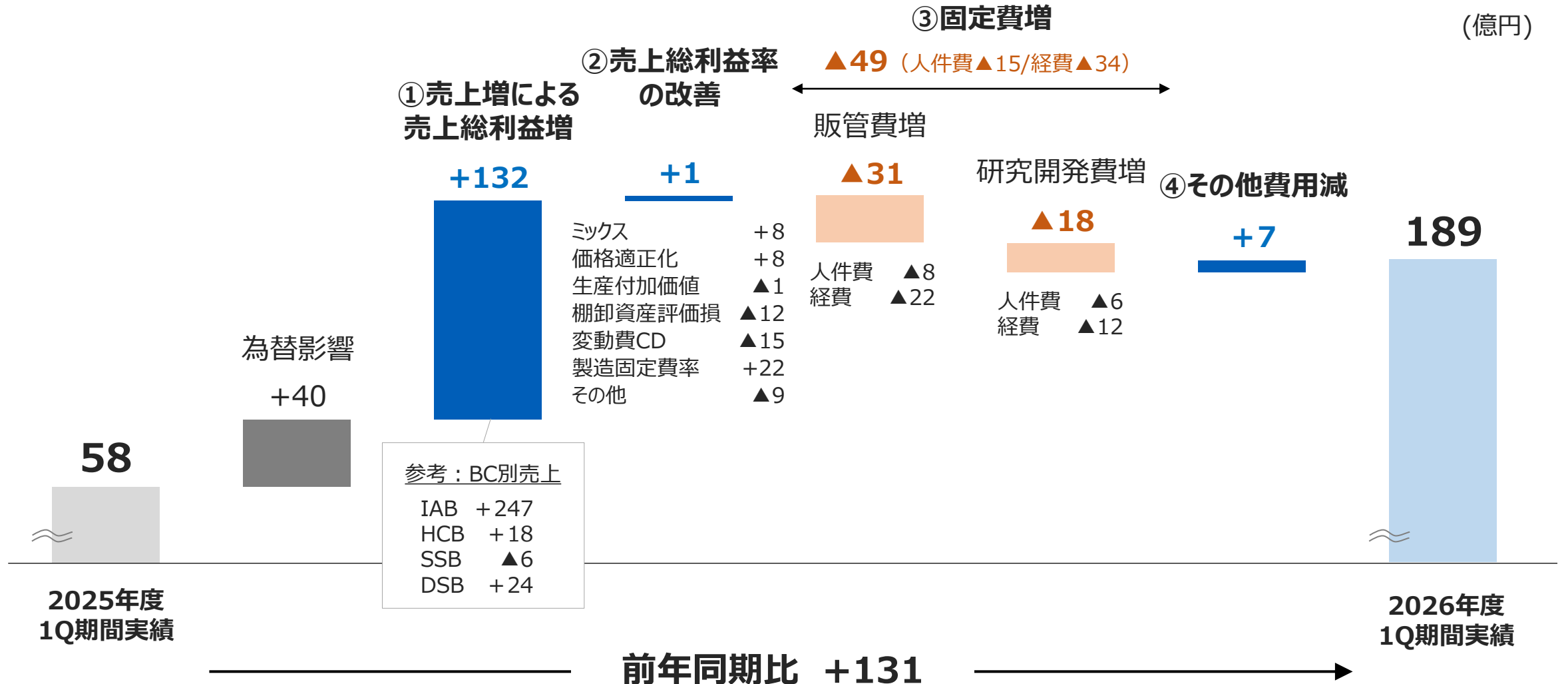
売上高				営業利益 (億円)			
	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比	2025年度 1Q期間実績	2026年度 1Q期間実績	前年同期比	
制御機器事業 (I A B)	956	1,312	+37.2%	106 (11.1%)*1	213 (16.2%)	+100.8% (+5.1pt)	
ヘルスケア事業 (H C B)	312	364	+16.7%	12 (3.8%)	24 (6.6%)	+101.7% (+2.8pt)	
社会システム事業 (S S B)	248	242	△2.0%	2 (0.7%)	1 (0.3%)	△62.5% (△0.4pt)	
データソリューション事業 (D S B)*2	106	131	+22.8%	△1 -	3 (1.9%)	- -	
うちJMDC	107	126	+17.5%	16 (14.5%)	18 (14.5%)	+17.5% (△0.0pt)	
本社他（消去調整含む）	42	49	+16.5%	△61	△51	-	
合計	1,665	2,099	+26.1%	58 (3.5%)	189 (9.0%)	+226.0% (+5.5pt)	

*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

*2. データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費、他データビジネスに関する財務数値を含む

1Q期間(4～6月)実績：営業利益増減（前年同期比）

制御機器事業の売上拡大を主要因に、売上総利益が大幅に増加。
注力事業への成長投資を継続しながら、131億円の増益



2. 2026年度 通期見通し

2Q以降の事業環境認識

制御機器事業は、期初想定を上回り好調な事業環境を見込む。
その他事業は、総じて期初想定通りの事業環境が継続

制御機器 事業

期初想定を上回り好調な事業環境を見込む
AI需要を背景に半導体業界や二次電池業界での設備投資は好調に推移
※詳細は後述

ヘルスケア 事業

期初想定通り、血圧計市場はグローバルで堅調に推移する一方、中国では前年並みを見込む
血圧計：グローバルで堅調に推移する一方、中国では個人消費の低迷が継続し、低価格帯へのシフトが進む
ネブライザ：感染症患者数の減少や暖冬(中南米)を背景に、オフライン市場を中心に低調に推移する見込み

社会システム 事業

期初想定通り、総じて堅調な事業環境を見込むものの、住宅向け再エネ市場は競争環境が激化
蓄電システム：住宅向け再エネ需要は補助金を背景に堅調に推移する一方、競合メーカーの価格攻勢により、競争環境が激化
鉄道：鉄道各社の設備投資は堅調に推移

データ ソリューション 事業

期初想定通り、ヘルスビッグデータ事業を中心に、総じて堅調な事業環境を見込む
JMDC：医療データ利活用の動きは、製薬・生損保業界を中心に堅調に推移する一方、競争環境は激化。
社会的な健康・予防意識の高まりを背景に、多様なヘルスケア領域におけるサービスの需要が拡大

通期業績見通し：全社連結

売上・営業利益・当期純利益を上方修正

(億円)

	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	2025年度 実績	前年度比
売上高	8,200	8,800	+7.3%	7,681	+14.6%
売上総利益	3,820	4,100	+7.3%	3,518	+16.5%
(売上総利益率)	(46.6%)	(46.6%)	(+0.0pt)	(45.8%)	(+0.8pt)
営業利益	620	800	+29.0%	564	+41.7%
(営業利益率)	(7.6%)	(9.1%)	(+1.5pt)	(7.3%)	(+1.7pt)
継続事業純利益	450	580	+28.9%	385	+50.5%
非継続事業純利益	△145	△145	-	△135	-
当社株主に帰属する 当期純利益	275	405	+47.3%	222	+82.1%
継続事業純利益ベース					
ROE	5.5%程度	7.0%程度	-	4.8%	-
ROIC	4.0%程度	5.5%程度	-	3.8%	-
EPS (円)	228.86	294.97	+66.1	195.92	+99.0
米ドル 平均レート (円)	155.0	156.2	+1.2	150.3	+5.8
ユーロ 平均レート (円)	180.0	181.3	+1.3	173.9	+7.4
人民元 平均レート (円)	22.0	23.1	+1.1	21.1	+1.9

* 電子部品事業除く全社連結計画（非継続事業組替え後）

通期業績見通し：セグメント別

制御機器事業、ヘルスケア事業は売上・営業利益を上方修正。
社会システム事業は売上・営業利益を下方修正

売上高

	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	前年度比 ^{*1}
制御機器事業 (I A B)	4,400	5,000	+13.6%	+21.9%
ヘルスケア事業 (H C B)	1,500	1,550	+3.3%	+6.7%
社会システム事業 (S S B)	1,530	1,480	△3.3%	+2.7%
データソリューション事業 (D S B) ^{*3}	620	620	-	+21.2%
うちJMDC	605	605	-	+19.9%
本社他（消去調整含む）	150	150	-	△14.1%
合計	8,200	8,800	+7.3%	+14.6%

営業利益

(億円)

	2026年度 期初計画	2026年度 今回見通し	期初計画比	前年度比 ^{*1}
	440 (10.0%) ^{*2}	650 (13.0%)	+47.7% (+3.0pt)	+64.9% (+3.4pt)
	150 (10.0%)	155 (10.0%)	+3.3% -	+32.3% (+1.8pt)
	225 (14.7%)	195 (13.2%)	△13.3% (△1.5pt)	+0.5% (△0.3pt)
	50 (8.1%)	50 (8.1%)	- -	+20.1% (△0.1pt)
	115 (19.0%)	115 (19.0%)	- -	+9.3% (△1.8pt)
	△245	△250	-	-
	620 (7.6%)	800 (9.1%)	+29.0% (+1.5pt)	+41.7% (+1.7pt)

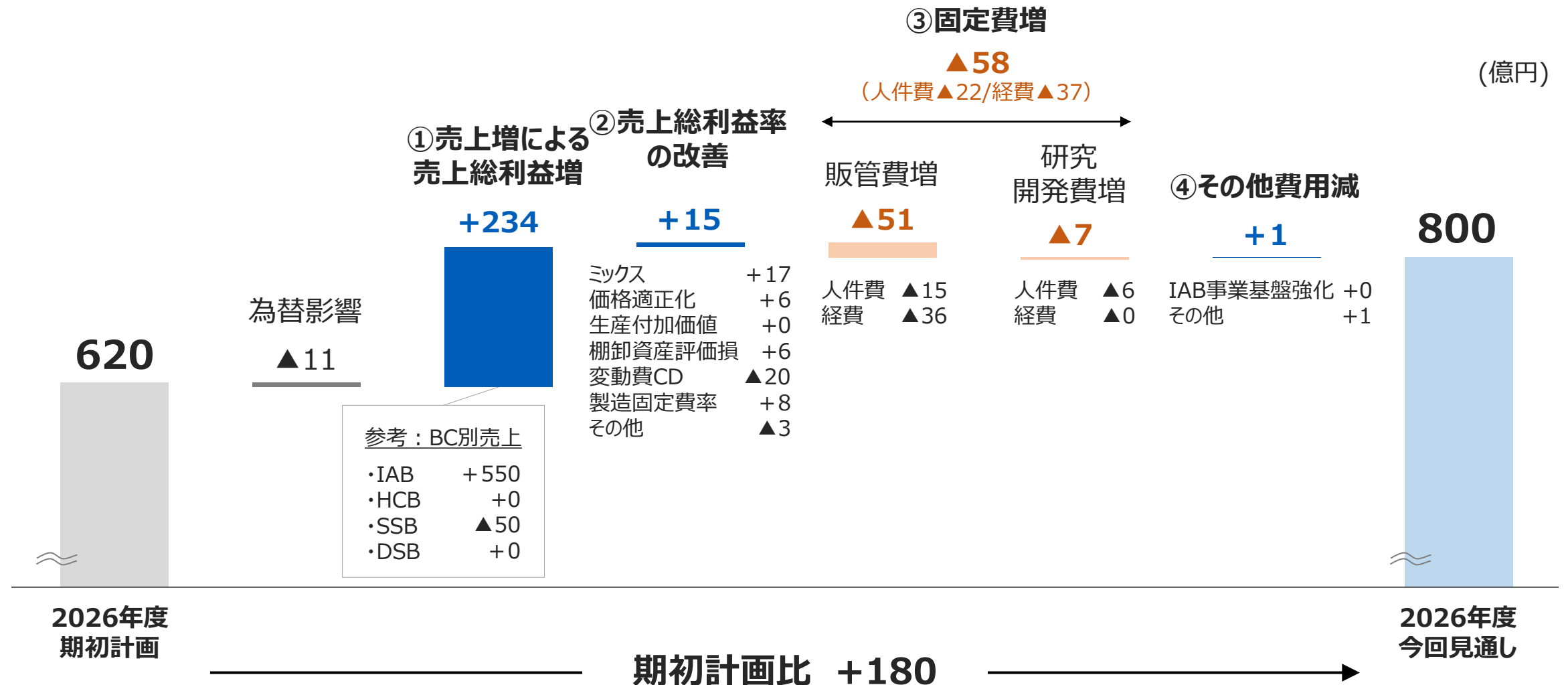
*1. セグメント別の前年度比は、IFRSでの決算作業が未了の2025年度実績と比較し、算出した数値

*2. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

*3. データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費、他データビジネスに関する財務数値を含む

通期業績見通し：営業利益増減（期初計画比）

制御機器事業の売上拡大を主要因に、期初計画比+180億円の増益を見込む

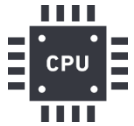


制御機器事業：2Q以降の事業環境認識

AI関連需要を背景に、半導体や二次電池業界での設備投資は期初想定を上回り好調に推移

業界

事業環境認識



半導体

- ・ 生成AI関連需要を背景に、先端半導体の設備投資がグローバルで拡大継続
中国では、国産化を背景とした装置メーカーの投資拡大が継続

AXI (X線基板検査装置)

- ・ データセンター需要を背景に、関連メーカーの設備投資は堅調に推移



EV・ 二次電池

- ・ EV向けの設備投資は、一部で戦略投資を見込むも、
需要の低迷を背景に総じて横ばい
- ・ 二次電池の設備投資は、データセンター需要を受け、
ESS(電力貯蔵システム)向けに高位継続



その他^{*}

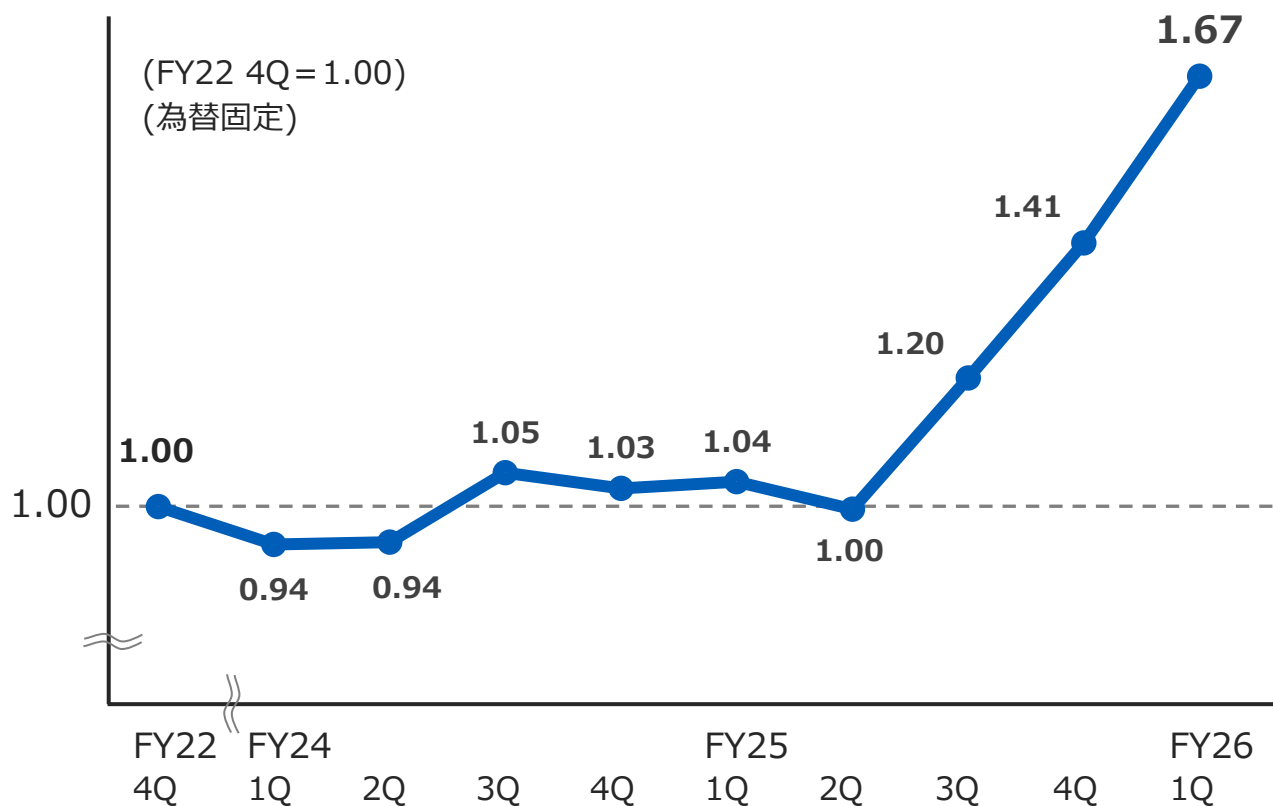
- ・ 設備投資需要は、グローバルで総じて緩やかな回復を見込む

* 「半導体、AXI」「EV・二次電池」を除いた全ての業界

制御機器事業：受注水準の推移

1Qの受注水準は、前年下期からの上昇トレンドが継続。AI需要の獲得が受注の伸びを牽引

受注水準の推移



1Q受注推移の背景

① AI需要を背景とした設備投資需要の獲得

- 先端半導体投資の獲得
- データセンター向け二次電池投資の獲得
- AIサーバ向けの基板検査需要の獲得

② 顧客基盤の拡大

- 顧客ニーズを捉えた新商品ラインナップの拡充
- 顧客別の取引状況の可視化と提案強化

制御機器事業：成長を牽引する業界・商品（1Q売上実績・前年同期比）

注力業界に加え、幅広い業界・製品で売上成長を実現

業界

注力業界

[売上構成比]



半導体業界

+46%

半導体製造装置
メーカーの投資拡大

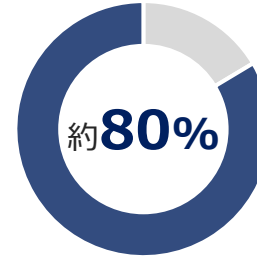
二次電池業界

+46%

データセンター向け
ESS投資の増加

その他業界^{*1}

[売上構成比]



+14%

顧客別の取引状況の
可視化と提案強化

商品

AXI

+257%

AIサーバやPCBに対する
X線検査ニーズの高まり

新商品^{*2}

+312%

継続的な新商品リリース
(累計35機種)

*1 半導体、EV・二次電池業界およびAXIを除く売上高 *2 FY24以降にリリースした商品の累計売上高

制御機器事業：オムロンの競争力（半導体業界）

オムロン独自の制御アプリケーション創出力が、高い競争優位を実現

オムロンの強み

顧客との共創による
高速・高精度な制御アプリケーション創出力



制御機器とソフトウェアを
融合する**統合制御技術**



高難度課題を解決する
独自ソフトウェア開発力



次世代技術を顧客と共創する
半導体業界専任SE

工程別 制御アプリケーション 代表例

前工程	表面酸化	ワーク温度均一制御
	薄膜成型	ワーク温度均一制御
	レジスト塗布	高精度塗布量管理・GAP制御
	露光・現像	超精密ステージ制御
	エッチング	異物常時監視・クリーン度管理
	洗浄・剥離	異物常時監視・クリーン度管理
後工程	グラインディング	高精度ウエハ厚み計測
	ダイシング	高精度カット位置検出
	ボンディング	ナノレベル高精度モーション制御
	最終検査	振動抑制による高速搬送
自動化	完成品検査	3D-X線検査
	工程間搬送	FOUP搬送完全自動化

3. CFOメッセージ

GEMBA DXの実現に向けたタイムライン

2030年まではデバイスを成長の原動力とする。

デバイスの拡販を通じ競争優位性を再度鍛え上げ、GEMBA DX実現の確度を高めていく

SF 2030 2nd Stage

GEMBA DX実現への移行期

“デバイス事業の競争力強化”に軸足

2030年までデバイス事業の競争力強化を最優先し、
成長とGEMBA DXの土台構築を実現する

データサービス
による成長

デバイスによる成長

2025

2030

顧客基盤の拡大に向けた取り組み

「VALUE」と「FRONT」の強化により、顧客基盤の拡大が進む

IAB

HCB

SSB

VALUE

エリア・市場ニーズを捉えた新商品・AIを活用した高付加価値商品



データフローコントローラ
(25' 9月リリース)



AI
画像処理システム
(25'10月)



レーザ変位センサ
(24' 12月)

累計 35機種

×



AI
圧脈波血圧計
(24'以降グローバルリリース)



中国向けカフ一体型血圧計
(25' 8月)



中国向け
充電式大画面血圧計
(25' 8月)

×



AI^{*1}
国内最小クラス^{*2}
蓄電池ユニット
(25' 5月リリース)



AI^{*1}
トリプル蓄電システム
(25' 10月)



PPA事業者向け
PV用モニター・パウコン
(26' 8月)

×

FRONT

販売チャネル強化・データ活用による営業/マーケティングの高度化

顧客データ起点の
営業・マーケティングモデルのグローバル展開

デジタルマーケティングの成功モデルの
グローバル展開

既築・新築チャネル双方への営業強化
による販売網の拡大

顧客基盤の拡大

*1 クラウド上のAIを活用して自動充電量制御が可能 *2 国内における同容量帯蓄電池ユニットにおいて (25' 4月時点、自社調べ)

OMRON

参考資料

サステナビリティ関連における社外評価（2026年8月現在）



CDP「気候変動」で「A-」、「水セキュリティ」で「B」評価に選定



EcoVadis「Gold（上位5%）」に格付け



「MSCI Selection Indexes*」12年連続選定

*2025年2月に「MSCI ESG Leaders Indexes」から名称変更



FTSE4Good

「FTSE4Good Index Series」11年連続選定



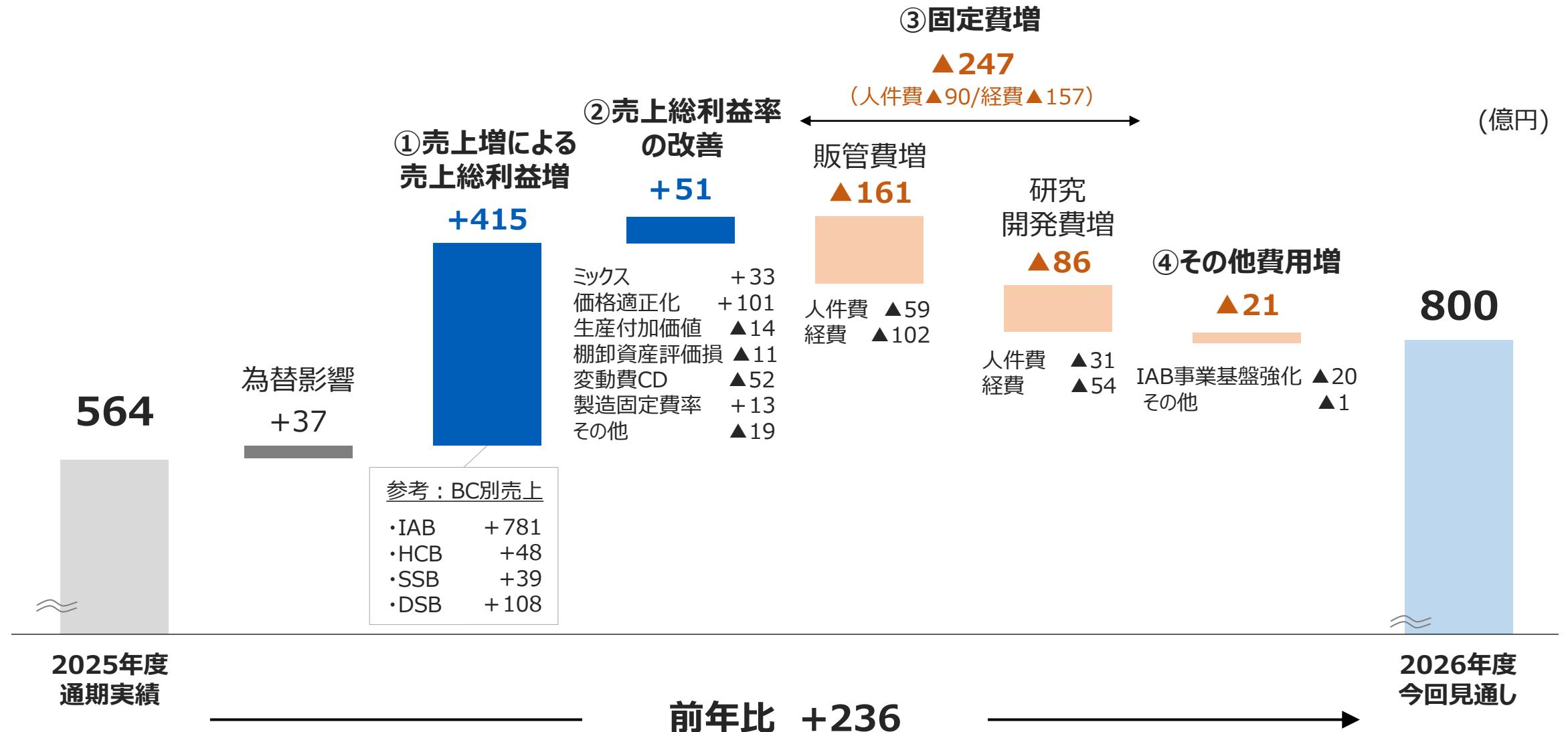
ISS ESG コーポレート・レーティング「プライム」獲得



Sustainalytics ESG リスク・レーティング「Low Risk」評価獲得

通期業績見通し：営業利益増減（前年比）

制御機器事業の大幅な売上増を主要因に、前年比+236億円の増益を見込む



連結貸借対照表

(億円)

	2026年3月末	2026年6月末	前年度末差異
流動資産	6,717	7,167	+450
（現金及び現金同等物）	(1,666)	(2,179)	(+513)
（たな卸資産）	(1,542)	(1,611)	(+69)
有形固定資産	1,025	1,045	+21
投資その他の資産	5,892	5,629	△262
資産の部合計	13,634	13,841	+208
流動負債	3,613	3,722	+109
固定負債	1,472	1,475	+4
負債の部合計	5,085	5,198	+113
株主資本	8,218	8,321	+103
非支配持分	331	323	△8
純資産の部合計	8,549	8,644	+95
負債及び純資産合計	13,634	13,841	+208
株主資本比率	60.3%	60.1%	△0.2pt

連結キャッシュフロー計算書

(億円)

	2025年度 1Q累計実績	2026年度 1Q累計実績	前年同期差異
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	164	640	+475
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	△161	△303	△141
フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	3	337	+334
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	93	140	+47
期末の現金残高	1,569	2,179	+610
設備投資	111	126	+15
減価償却費	115	110	△5

2026年度の為替感応度・為替前提

1円変動(人民元は0.1円)による影響額(通期)

	為替感応度		為替前提
	売上高	営業利益	2026年度 2Q以降為替前提
米ドル	約11億円	約0億円	155.0円
ユーロ	約6億円	約3億円	180.0円
人民元	約6億円	約1億円	23.0円

*新興国通貨等が、主要通貨に対して期初想定通りに連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

$$\text{ROIC} = \frac{\text{税引き後営業利益} + \text{持分法投資損益}}{\text{投下資本}^*}$$

* 投下資本 = 借入金 + 株主資本 + 非支配株主持分

投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出

＜注意事項＞

1. 2026年度より、従来の米国会計基準（US-GAAP）に替えて、国際財務報告基準（以下IFRS）を任意適用しております。本変更に伴い、2025年度、および2026年度の連結業績に関しては、IFRSに基づき作成しております。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

オムロン株式会社

グローバル戦略本部 IR部

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.com/jp/ja/